

# 石川県七尾美術館だより

平成14年1月4日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第28号(冬号)



ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM

利家とまつ特別展  
「前田利家と能登」「桃山の美術」より

重要美術品

前田利家画像

桃山時代(17世紀)

縦49.4×横32.5

七尾市 長齡寺 蔵

# 展覧会紹介

平成十四年一月四日(金)～

四月十四日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

利家とまつ特別展

## 「前田利家と能登」・「桃山の美術」

一月四日(金)～二月二十四日(日)

### 第一・第二展示室

加賀百万石の基礎を築いた前田利家は、天文六年(一五三七)に尾張国愛知郡荒子村に誕生したといわれます。十五歳の時に織田信長に仕え、翌年に初陣を果たし、二十歳の弘治二年(一五五六)、「稻生の合戦」で初手柄を挙げました。

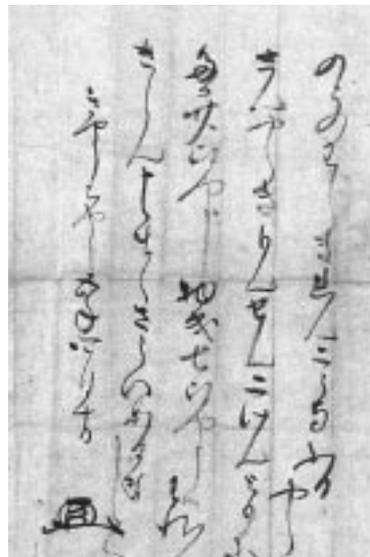
そして信長の親衛隊である馬廻赤母衣衆筆頭として戦場を駆け巡り、得意とする長槍を駆使して武功を重ね、その勇猛果敢な姿により「槍の又左」と呼ばれました。また、奇抜な意匠を好み、異様な風体で市中を闊歩する「かぶき者」としても名を馳せていました。

やがて、信長の一部将に取り立てられた利家は、天正九年(一五八一)に能登国を与えられ、初め



七尾市指定文化財

「前田利政画像」七尾市・長齢寺蔵



輪島市指定文化財

「芳春院寄進状」輪島市・蓮江寺蔵

て一國の城主となりました。その後、「本能寺の変」「賤ヶ岳の合戦」などを経て、豊臣秀吉を新たな主君とし、加賀・能登・越中の三九國の大名として豊臣政権に参画します。若い頃より秀吉と交誼のあつた利家はその信頼を受け、政権内で重きをなしました。晩年には秀吉の嫡子・秀頼の後見を託される程でしたが、秀吉没後の翌年で「関ヶ原の合戦」の前年、慶長四年(一五九九)に亡くなりました。

前田利家は天正九年より同十一年までの約二年間を能登七尾を主な舞台として活躍しています。その間、現在の小丸山に新たな拠点となる城(小丸山城)を築き始める一方、様々な諸政策を実施、現在でも能登地方各所にはその足跡を伺わせる作品や史料が遺されています。また、利家の金沢移動以降も一族を配置し、前田領国としての基盤を固めていきました。やがて前田家は百万石の大大名となる訳ですが、つまり能登国はその出発点と

なつた意義深い土地であるといえるのです。

さて、今年のNHK大河ドラマ「利家とまつ」がいよいよ始まります。そこで本展では「利家とまつ」関連の特別展として、「前田利家と能登」「桃山の美術」の二テーマで展示を行います。

### 「前田利家と能登」

本テーマでは、利家が居城を構えた七尾に所蔵されている史料を中心に、能登地方に由来する作品や史料など約三十点を展示し、前田利家と能登地方との関わりを紹介します。主な出品予定史料としては、七尾市・長齢寺所蔵作品などの前田一族の肖像画や、統治の足跡を示す文書史料、石動山・末森両合戦など能登における戦いの関連史料などを予定しています。

### 「桃山の美術」

前田利家が活躍した桃山時代は天下人・織田信長や豊臣秀吉といった戦国大名達の好みを反映した、豪壮で絢爛豪華な美術・工芸品が流行したことで知られています。

本テーマでは、当館所蔵「池田コレクション」の織部焼などを中心に、一部絵画を加えて桃山時代の美術工芸品約三十点を紹介する予定です。

本展会期中の一月二十日(日)、NHK解説委員・堀徹男氏によります特別講演会を開催いたします。詳しくは四ページをご覧ください。

### 観覧料

一般	個人	団体
500円	350円	400円
大高生	350円	300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。

## 「石川県ゆかりの作家たち」

「若手日本画家の視点」

三月二日(土)～四月十四日(日)

### 第二展示室

「日本画」という言葉は、明治時代に西洋から伝わった油絵具を使って描く「洋画」と区別するために用いられた言葉です。洋画では顔料を油で溶いたものを絵具に用いるのに対し、日本画では鉱物を砕いた岩絵具を膠で溶いたものを絵具に用いる点が両者の大きな違いであると言えます。

一般的に「日本画」というと、近代日本画のよくな屏風や軸などの作品を思い浮かべてしまうかもしれません。しかし、現在では絵具の材質以外は日本画と洋画の違いがあまりなくなってきました。特に若い日本画家の間では、伝統的な技法を受け継ぎながらも、さまざまな技法を取り入れ、新たに独自の工夫と自由な発想とを組み込もうとする試みや探究心が強く打ち出された作品が数多く制作されているのです。



『『ポカン』と天井に穴があく』加戸ひとみ



「SHINJUKU 1998」中町 力



「中世の民家」古澤洋子

昨年「NOTO・二十一世紀の展望展」で、能登にゆかりのある若手作家の絵画・漆芸・陶芸・彫刻作品を紹介しましたが、本展では能登に留まらず、石川県内で活躍している三十歳代の若手日本画家に焦点を当て、次代を担う作家たちの近年の作品を中心に約二十点を展示・紹介します。

#### 共通観覧料

一般	個人	団体
500円	350円	400円
大高生	350円	300円

中学生以下無料・団体は二十名以上です。  
同時開催の「春の優品展」と共通料金です。

## 「春の優品展」

「書と工芸を中心に」

三月二日(土)～四月十四日(日)

### 第一展示室

「書」は、東洋独自の芸術として世界に知られていますが、近年ではパソコンの普及の影響で、手紙でさえ手書きで書くことが少なくなっているのではないのでしょうか。

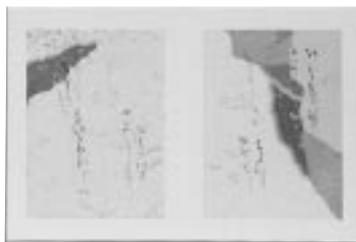
筆を用い気持ちを込めて書いた文字には、その人の個性や感情が込められており、筆の流れや墨の濃淡の中に「美」を見出すことができます。

本展では、当館で所蔵している能登ゆかりの現代作家作品及び、池田コレクションの中から、「書」と「工芸」に焦点を当て、約二十点を展示します。

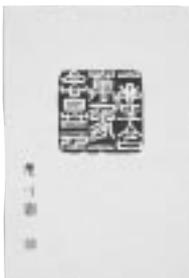
観覧料は同時開催の「石川県ゆかりの作家たち」と共通です。



「群竹」村上鵬雲



「古今和歌集 冬」  
津田雪州



「一塵含万象」  
大場濯川

## アートホール催し案内

### 「利家とまつ」特別展講演会

一月二十日(日)  
開演 午後二時

演題 大河ドラマ「利家とまつ」にみる夫婦愛  
講師 堀 徹男氏(NHK解説委員)  
場所 当館アートホール  
入場料 無料  
主催 七尾市商工観光課  
共催 財団法人七尾美術館  
連絡先 七尾市商工観光課  
☎〇七六七(五三) 八四二四

### ほくでんふれ愛ミニコンサート

一月二十七日(日)  
開場 午後一時  
開演 午後一時三十分

オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバーによるフルートと弦楽四重奏です。クラシックの名曲等を皆さまにお届けいたします。ご応募をお待ちしております。

入場料 無料

\*入場整理券が必要です。往復ハガキに住所・氏名・年齢・連絡先・希望人数(二名様まで)をご記入のうえお申し込みください。一月七日(月)必着。  
主催 北陸電力株式会社 七尾支社  
申込先 千九二六 八五八五  
七尾市三島町六一 七

北陸電力株式会社七尾支社 総務地域課

連絡先(代表) ☎〇七六七(五三)〇二〇二  
(直通) ☎〇七〇(五八三三)六三六九  
(平日九時~十七時まで)

### 芝居を十倍楽しむ方法 『平家物語』朗読付き

二月二十二日(金)  
開場 午後六時  
開演 午後六時三十分

前進座の嵐圭史さんが芝居の魅力をたっぷりお話しして下さい。歌舞伎の多様なせりふを中心に、大いにお楽しみ頂けると存じます。「平家物語」の朗読もあります。

入場料 無料

\*但し、会員以外の方は市民劇場に入室してからご参加ください。入会費は千円です。

主催 七尾市民劇場  
連絡先 七尾市民劇場

☎〇七六七(五二)〇八三四

### ●当館主催の催し●

#### アートホール

映画上映会【入場無料】

一月十二日(土)・二十六日(土)  
二月 九日(土)・二十三日(土)  
「荒川豊蔵と志野・瀬戸黒」(約二十五分)  
三月 九日(土)・二十三日(土)  
「日本の書」(約二十分)

### 2001 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展 子どもワークショップ報告

平成十三年九月二十九日(土)~十月二十八日(日)に開催された「2001イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」では、ポローニャ展としては過去最高の入場者数を記録しました。

展覧会初日には、マープルチョココレートのキャラクター「マープルわんちゃん」の生みの親であり、今年の入選者であるたかいよしかずさんと、同じく今年の入選者の一人である田中友美子さんが来館され、美術館内も大いに盛り上がりました。県内は元より、県外からも「ポローニャファン」が駆けつけ、特に土日は多くの家族連れなどで賑わいました。来年度の本展応募要項についても、多くの方が持ち帰られ、ようやく七尾美術館でのポローニャ展が定着してきたようで、本当にうれしく思います。来年は、石川県から入選者が出ますようにと心から祈る次第です。

ところで、

そういつたポローニャ展の人気の理由は、様々なことが考えられますが、なかでも子ども対象の「映画上映会」やワークショップ「かんたん絵本をつくらうよ!」「雨でも楽しいかさづくり!」の



「かんたん絵本をつくらうよ!」制作風景

開催が、大きなポイントになっっているようです。

毎年開催している「かんたん絵本をつくろうよ！」

では、「今年も来たよ」

「絵本づくりは今回で三回目」と言う嬉しい声飛び交いました。

三回目ともなると手馴れたもので、自分が使いたい材料を家から持ってきている子もいました。

毎週土日の開催にもかかわらず、会期後半へ行くと定員を上回る人気となり、中には親子四人で力作にとりかかる光景も見られました。

また、今年初めての試みとなりました「雨でも楽しいかさづくり」も、会期中二回の開催でしたがなかなかの好評で、何れも定員オーバーとなりました。みんな思い思いにかさに絵を描いたり、ボタンをつけてみたり、紐をくっつけてみたりと、今までのかさのイメージをはるかに越えて、色んな「かさ」が出来上がり、中には楽しそうにかさを差して帰る子どもたちもいました（もちろん外は晴れてました！）。みんな、来年のポロニーヤ展でも待つてるよ！

最後になりましたが、毎年「かんたん絵本をつくろうよ！」のために、貴重な時間を割いて指導してくださっている先生方に、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



「雨でも楽しいかさづくり！」完成作品を前にして

## 等伯コーナー 講演会報告

### 「長谷川派の絵師たち」

講師 石川県立歴史博物館副館長 北春千代氏



等伯の息子たち

等伯には長男・久蔵、次男・宗宅、三男・宗也、四男・左近の四人の息子と等秀・等学という二人の娘婿がいたとされます。

長谷川久蔵（はせがわきゅうぞう）

京都・本法寺所蔵『過去帳』には久蔵に関して、文禄二年（一五九三）六月十五日、二十六歳で亡くなったと記述しており、従って永禄十一年（一五六八）、等伯の三十歳の時に生まれた事が分かります。両親の等伯夫妻に連れられて上洛し、幼少時より絵の勉強をし、若くして大変に腕が立つたといわれます。京都・清水寺所蔵『朝比奈草摺曳図絵馬』は板地濃彩の大絵馬で、久蔵二十五歳の時の作品ですが、この絵馬は古くから久蔵の作として著名で、その力量の程が窺われます。また、江戸時代に狩野永納が編纂した画人伝『本朝画史』でも久蔵に非常に高い評価を与えています。ですから、等伯にとつては将来の「長谷川派」を託すべき期待の後継者でしたが、僅か二十六歳で亡くなってしまいました。

久蔵の作品ですが、代表作として京都・智積院所蔵の国宝『旧祥雲寺障壁画』中の『桜図』があります。祥雲寺は豊臣秀吉が建立した大寺院で、内部に等伯達によって金碧障壁画が描かれ、久蔵は『桜図』を担当したとされます。柔らかな筆致で画面いっぱい咲き誇る桜を描いて春の景色を見事に表現し、清雅な美しさに満たされています。それから東京国立博物館所蔵『大原御幸図屏風』は描線が非常に繊細で大和絵的な要素が感じられ、久蔵が大和絵を学んでいた事を連想させます。また、伝承作品として『祇園絵図』があります。

長谷川宗宅（はせがわそたく）

京都・北野天満宮所蔵の宗宅の基準作『李白・陶淵明図屏風』には「長谷川宗宅筆」の款記と「等後」印が捺され、宗宅は別名を「等後」といった事が判明します。それから『御湯殿上日記』慶長十五年十一月一日の条「はせ川ほつけうの御礼十ジヨウしるかね二まいしん上す」の記述より、宗宅が慶長十五年（一六一〇）に朝廷より「法橋」の位を頂いたという事が分かります。つまり、等伯が亡くなった時、長男・久蔵は既に死去してしまっているので、次男である宗宅が「長谷川派」をリードする立場だった訳です。ところが、本法寺塔頭・教行院『過去帳』十三日の条には「長谷川等後 法橋 慶長十六年辛亥十月」とあり、宗宅は法橋に叙せられた翌年に亡くなってしまったのです。等伯没後の翌年に一門を束ねるべき次男・宗宅を失った「長谷川派」の衝撃は如何ばかりであったらうと思います。

宗宅の作品ですが、まず京都・南禅寺所蔵の『秋草図屏風』があります。画面中央に描かれた萩が放射線状に伸びていく姿が印象的で、宗宅作品によく見られる繊細な作風です。それから群馬県立近代美術館所蔵『柳橋水車図屏風』ですが、「柳橋水車図」については「長谷川派」の得意分

野だったといわれ、宗宅も制作しています。また、個人蔵『山水図屏風』や『枯木鴉図屏風』などが知られている他、推定作品として京都・永観堂禅林寺所蔵『山杉図屏風』など幾点かの作品が挙げられます。

長谷川宗也（はせがわそや）

現在、三本ある長谷川家の系譜の内『七尾町旧記』の「長谷川家系譜」には、「宗也等祝（悦）信正 等伯次（三）子／俗称新之丞／寛文七末七（八）月六日卒／西誉生順信直／宿坊寺町通丸太町 浄土宗／信行寺葬」とあり、寛文七年（一六六七）に亡くなった事が分かります。また、仲家本『長谷川家系譜』には宗也が七十八歳で亡くなった事が記載され、宗也は天正十八年（一五九〇）に生まれた事が判明します。兄・宗宅が亡くなった時には宗也は二十二歳で、その後は三男である宗也が「長谷川派」一門を必死に支える立場にあった訳です。

宗也の作品ですが、京都・八坂神社所蔵の『大黒布袋角力図絵馬』があります。画面に「明暦三丁酉歳仲春下流 長谷川新之丞筆」の款記があり、明暦三年（一六五七）、宗也六十八歳の時に描いた作品である事が分かります。それから京都・清水寺所蔵の『虎図絵馬』は「寛文四甲辰歳閏五月吉日」「長谷川新之丞」の款記によって寛文四年（一六六五）、七十五歳時の作品です。また、「長谷川派」お得意の『柳橋水車図屏風』を宗也も描いており、現在一組が各所に所蔵されている他、個人蔵『龍虎図屏風』や、アメリカ個人蔵『葛に昆虫図屏風』、『籬に山吹空木図屏風』なども知られています。

長谷川左近（はせがわさこん）

左近については近年発見された新潟県佐渡の実相寺所蔵『三番叟図絵馬』裏面款記「寛永元年九

月三日 長谷川左近卅二歳筆」により、寛永元年（一六二四）左近三十一歳の作品である事が判明、つまり文禄二年（一五九三）生まれと分りました。因みに等伯没時、左近は十八歳となります。しかしながら『長谷川家系譜』及び本法寺教行院『過去帳』いずれにも左近の事が出てきません。「雪舟六代」を自称した左近が、どの記録にも登場しないのは非常に不思議に思えます。推測ですが、左近が兄・宗也をさしおいて「雪舟六代」を名乗った為に宗也と仲違いしたのではないかと、とも思えます。

左近の作品ですが、まず滋賀・海津天神社所蔵『二十六歌仙図扁額』があります。「白雪舟六代藤原長谷川左近書」「寛永七年六月吉日」の款記により、寛永七年（一六三〇）、左近三十八歳時の制作である事が分かります。その画風からは宗達の影響が感じられ、「長谷川派」ながら時代の要求によって画風も変化していったと思われる。それから金沢・大乘寺所蔵『十六羅漢図』は顔の部分を書く、一方で衣紋線を荒々しく描いている所などは等伯の影響が感じられます。個人所蔵の『達磨図』も同様の描き方をしていますが、等伯筆『達磨図』に比べて左近の方は一律的な描線が目立ちます。なお、この作品には「等重」印が使用され、左近が別名を「等重」といった事が判明します。他には、ボストン美術館所蔵『牧牛・野馬図屏風』や個人蔵『禅宗祖師図屏風』、メトロポリタン美術館所蔵『群仙図屏風』、個人蔵『花卉図屏風』、高野山金剛三昧院所蔵『浪龍図屏風』、『朝比奈草摺曳図絵馬』などが知られています。

長谷川等秀（はせがわとうしゅう）

長谷川等学（はせがわとうがく）

等伯研究者・山根有三先生は「法眼等伯」落款を持つ等伯の作品や各地の大寺院などに所蔵されている「長谷川派」無落款作品の一部について、

主に等伯の娘婿である等秀・等学を作者として当てはめ、長男・久蔵没後における等伯の制作活動に等秀・等学が深く関わっていたのではないかと提唱されています。しかしながら等秀・等学の基準作品が現在の所始ど無い事から今後、更なる検討が必要だと思えます。なお、父が等秀で、等学の養子となった等憶という人もいます。

「長谷川派」の門人たち

『長谷川家系譜』や『過去帳』などに記載がある人物以外にも、多くの「長谷川派」と思われる絵師達の作品が残されています。

長谷川等誉（はせがわとうよ）

等誉については七尾・長壽寺所蔵『過去帳』『廿六日』の項に「寛永十三年（一六三六）正月二十六日に亡くなった事が分かります。また、七尾・本延寺所蔵の等誉が慶長十四年（一六〇九）に描いた『涅槃図』の裏書に、「奥村宗以」という人物が願主総代となって『涅槃図』を寄進したという記載があります。仲家本『長谷川家系譜』によれば、等伯の実父・奥村文之丞ゆかりとして「宗以入道」という人物の名があり、つまりは等伯と奥村宗以は縁者で、宗以発願の涅槃図を等誉が描いている事により、その関係が注目されます。等誉の作品としては、款記により慶長四年（一五九九）に描かれた事が分かる七尾・成蓮寺所蔵の『白描涅槃図模本』や慶長十五年（一六一〇）に等誉が補修した中島・久麻加夫都阿良加志比古神社旧蔵『法華経見返絵』、鳥屋・山田寺所蔵『涅槃図』、個人蔵『出山釈迦図』、同『十六羅漢図』などが知られています。また、羽咋・妙成寺所蔵『松・杉・榎図屏風』のような金地着色の作品もあり、等誉は観賞画も描いていた事が分かります。

長谷川主殿（はせがわしゅでん）

江戸時代初期の元和・寛永年間を中心に活躍したとされ、作品は京都・妙心寺隣華院所蔵の『架鷹図押絵貼屏風』などがあります。

長谷川等玉（はせがわとうぎよく）

江戸時代初期の元和・寛永期頃に活躍したとされ、『長谷川家系譜』に「等玉 新之丞 信雪」とあります。作品としては東北地方の個人蔵として『虎図』があり、同じ頃に活躍した長谷川等胤が仙台・瑞巖寺に障壁画を描いている事から、等玉が等胤と行動を共にしていた可能性もあります。

長谷川信吉（はせがわのぶよし）

江戸時代初期の寛永年間頃に活躍したとされ、『長谷川家系譜』に「等栄 雪之丞 信吉」と記載されています。作品としては『虎図屏風』などがあります。

長谷川永信（はせがわえいしん）

江戸時代前期の寛永・寛文期頃に活躍したとされ、作品は『花鳥図押絵貼屏風』などがあります。

長谷川等胤（はせがわとうぎん）

桃山〜江戸時代初期に活躍したとされ、慶長十一年（一六〇六）に香取神社の彩色の為に下総（千葉県）に下ったという記録が残ります。作品としては元和六〜八年（一六二〇〜二二）制作の『瑞巖寺障壁画』が知られています。

長谷川等言（はせがわとうごん）

江戸時代初期の元和年間頃に活躍したとされ、「等権」印の使用から、等権を別名としていた事が分かります。作品としては金沢・妙慶寺所蔵で雲谷派風の描写で非常に特色がある『達磨図』や、東京・養玉院所蔵で天海大僧正賛の『涅槃図』が

あります。

長谷川等仁（はせがわとうじん）

江戸時代初期の元和年間頃に活躍したとされ、作品は現在フリーア美術館他所蔵で元和三年（一六一七）創建になる明石城の襖絵であったとされる『花鳥図屏風』があります。非常に優れた出来栄で、「長谷川派」門弟中でも屈指の作品だとされますが、等仁の作品としてはこれ一点が知られるのみです。

長谷川等哲（はせがわとうてつ）

江戸時代前期の寛永・寛文年間頃に活躍したとされ、著名な画家・岩佐又兵衛の次男で、長谷川家の養子になったといわれます。作品は『紅白梅図屏風』などがあります。

長谷川等意（はせがわとうい）

桃山〜江戸初期頃に活躍しており、作品は出光美術館所蔵『大坂夏の陣図・源平合戦図屏風』、東京国立博物館所蔵『経ヶ島縁起絵』があります。

長谷川宗圓（はせがわそうえん）

桃山〜江戸時代初期の慶長・元和・寛永年間頃に活躍したとされ、作品は寛永六年（一六二九）寄進銘を持つ滋賀・盛安寺所蔵『藤花・牧牛図屏風』、大阪・四天王寺所蔵『花鳥人物図押絵貼屏風』などがあります。また、その息子で『絵本宝鑑』六巻を著した長谷川等雲（はせがわとうぐん）も「長谷川派」絵師として活躍しています。

長谷川等彝（はせがわとうい）

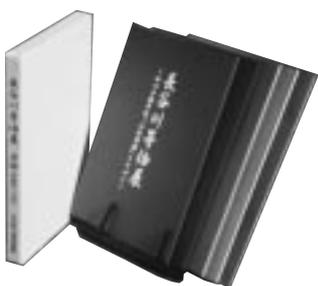
江戸時代前期の寛永・寛文年間頃に活躍したとされ、作品は『人物・花鳥図押絵貼屏風』などがあります。

結び

「長谷川派」にとって大きな打撃であったのは、やはり長男・久蔵と次男・宗宅が早くに亡くなった事ですね。しかも宗宅没後、本来であれば一門を束ねるべき三男・宗也が四男・左近と争っていた様で、一門の結束が乱れていた事が「長谷川派」のその後に大きな影響を与えたと思われまます。更に「長谷川派」絵師達には江戸幕府や大名などに召し抱えられた、つまり御用絵師に取り立てられたという形跡が殆どありません。稀に藩の記録などに若干「長谷川」名を持つ絵師が出てくる事はありますが、一門が集結して大規模な共同制作を行うという形ではなく、「一匹狼」の如く個々に活動していた様です。その点、「狩野派」絵師達が御用絵師として各地で召し抱えられ、勢力を拡大していたのとは対称的で、「長谷川派」は徐々に時の主流から離れ、やがては町絵師などの存在になつていったと推測されます。

本文は平成十三年九月十五日に行われた「長谷川等伯シリーズ 長谷川派の絵師たち」特別講演会の内容を当館の責任よってまとめたものです。

長谷川等伯展図録五冊（平成八〜十二年度分）が一つに納まるハードカバーが出来ました。



五冊揃えてお持ちの方は、当館受付にお申し出下さい。無料で差し上げます。

# 平成14年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される場合は、改めてお申し込み下さい。お申し込みのない場合は、そのまま退会となってしまいますのでご注意ください。  
今回から郵便振替による受付もはじめましたので、ぜひご利用ください。

## 入会手続きについて

- (1)年度会費 1,000円
- (2)受付開始 3月2日(土)
- (3)受付場所 当館受付カウンターまたは郵便受付【(6)参照】
- (4)受付時間 午前9時～午後4時30分
- (5)会員証有効期限 平成14年4月1日～平成15年3月31日
- (6)郵便による入会手続き

郵便振替用紙をご利用ください。(会員証は4月初旬に「石川県七尾美術館だより」とともに郵送します。)

郵便局備え付けの用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名・生年月日》をご記入の上、会費を添えて最寄の郵便局窓口へお出し下さい。

払込料金70円は申込者負担となります。

郵便振替口座	00710-0-50795
加入者名	石川県七尾美術館友の会

## 会員になられますと...

当館での事業(展覧会、講演会、演奏会など)を掲載した「石川県七尾美術館だより」が郵送されます。  
(年度内4回発行)  
当館主催の展覧会観覧料が団体料金に割引されます。  
(会員本人と同伴者2名まで)  
「石川県立美術館」「石川県立歴史博物館」「石川県輪島漆芸美術館」でも観覧料が割引となります。  
(会員本人のみ)  
当館学芸員による特別展の列品解説に参加できます。

1日研修の旅「友の会鑑賞の旅」(年1回)に参加できます。

以上の特典があり、このほかにも当館友の会限定の特別優待(販売グッズの割引など)を予定しています。

**\*ご注意\***  
一旦納入された会費はお返しできません。  
また、会員証の再発行はいたしません。

## 平成14年度 市民ギャラリー&アートホールの使用申し込みについて

当館では個展、グループ展、演奏会など幅広い芸術活動の発表の場として、市民ギャラリー&アートホールの貸室を行っています。平成14年度のお申し込みは、1月4日(金)から2月3日(日)までを第1次募集期間として受付いたします。ご希望使用期間が重複する場合、上記受付期間終了後に調整させていただきます。

展覧会等の関係上、ご利用いただけない期間もございますので、ご利用可能期間につきましてはお問い合わせください。

また、ご希望の方には詳細を説明したパンフレット「利用のご案内(展示室図面入り)」をお送りいたしますので、お気軽にお申し付けください。

### 市民ギャラリー(全6室+通路)

- ・展示面積(全6室+通路)..... 250㎡
- ・展示壁面延長(最大)..... 137㎡
- ・最大天井高 ..... 3.5m  
1室(27㎡)から貸室できます。



### アートホール

- ・面積 ..... 315㎡
- ・ステージ幅 ..... 8.5m
- ・客席(固定+可動)..... 240席  
ピアノ・16ミリ映写機・スライド映写機・OHC等もご利用いただけます。



### 【お問い合わせ・お申込先】

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1丁目1番地  
石川県七尾美術館 貸館係 ☎(0767)53-1500

次号・第29号(春号)は4月1日発行予定です。

## 休館日のお知らせ

1月 1~3、7、15、21、28  
2月 4、12、18、25~28  
3月 1、4、11、18、22、25

## 交通案内

車.....金沢より能登有料道路  
利用約1時間30分

タクシー...JR七尾駅より約5分

徒歩.....JR七尾駅より約20分

市内循環バス...JR七尾駅より西回りに  
(まりん号) 乗車約6分

